

## 2017年度(平成29年度)事業報告書（案）

2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日まで

認定NPO法人 富士山測候所を活用する会

### 1 事業の概況

7月10日に富士山測候所観測10周年を迎えた節目の年であったため、イベントとして例年7月、8月に実施している夏期観測に加えて、11月に5日間の日程で国際シンポジウムACPM2017を主催した。

夏期観測は開所前にインフラ（送電線施設）の補修工事を行い、過去最多の28事業に延べ377名が参加してほぼ順調に終了することができた。夏の観測だけにとどまらず通年で無人観測を継続する研究が5件と多くあり、「第2次越冬観測ブーム」となったことや、火山活動に伴って発生する二酸化硫黄のリアルタイムモニタリングなど富士山噴火に備えた防災関連の研究が特筆される。

また、国際シンポジウムACPM2017には、12の国と地域から101名が参加し、74件（口頭：41件、ポスター：33件）の発表があり、地球環境問題の解決に向けて研究成果を共有し活発に意見交換をはかった。国際シンポジウムの企画・運営にあたっては当NPOおよびそのメンバーが中心となり、NPOにとって新たな前例を作ったともいえる。

事業運営を支える資金については、柱となる大型複数年助成案件が前年で終了したが、調査研究事業を受託したほか、複数の団体から助成金を獲得することができた。また、富士山測候所観測10周年を記念して開催した国際シンポジウム（ACPM2017）の開催についても、参加費のほか個人団体からの寄附金、助成金等を得て実施した。

#### (1) 総合的運用事業

- インフラ関係では、①前年6月の定期点検で発見された送電線施設2.8合ハットの内部腐食対策として、天井を支柱で補強する工事を開所前に実施した、②山頂庁舎の老朽化対策として山頂班により1号庁舎屋根の部材張り替え工事等を実施した（2016年度大成建設自然・歴史環境基金助成）。インフラの老朽化対策としては、建屋のほか埋設ケーブル区間（ハットを含む）の中長期的な修繕計画にもとづく取り組みが必要である。
- 山頂で発生するし尿処理方法はかねてから課題となっていたが、利用者に配慮し、2017年度から太郎坊からの配送を含め部外能力を活用した。
- 御殿場基地事務所は新橋地区に確保し、東名高速道路からのアクセス利便性も向上した。

#### (2) 学術的・科学的事業

- 観測10周年の節目を迎えた2017年夏期観測は7/1-8/31まで過去最多の28事業（継続18事業、新規10事業）に延べ377名（対前年比18%減）が参加して実施された。参加者の減少はプロジェクト運営の省力化・効率化が進んでいる一方で、新規のプロジェクトが約3分の1を占めており、活用分野の拡大を示している。今後は利用者の潜在需要を喚起するための取り組みが必要である。
- 研究内容からみると、①夏の観測だけにとどまらず通年無人観測を継続する研究が5件と多く「第2次越冬観測ブーム」となった、②噴火など火山活動に伴って発生する二酸化硫黄のリアルタイムモニタリング、宝永山火口での観測、高所での噴火監視など富士山噴火に備えた防災関連の研究、③通信技術を利用して登山者の動きを可視化することにより人の安全を確保する大規模プロジェクトとの連携、④高所医学研究の2年ぶりの参加、などが特筆される。
- 助成事業では、①大陸から飛来する様々な物質を監視計測する装置を富士山はじめ東アジア各地に設置し、連続的に観測（2017年度栗井英朗環境財団助成事業）、②富士山頂に落雷時でもサージ電圧が侵入しな

いようにする装置の開発、山頂の特殊な環境でも使用できる新たな避雷針の研究（2015年度トヨタ環境活動助成プログラム助成事業）などを実施した。

### (3)環境教育事業

- 教育的観点から学生の自主的プロジェクトを対象に公募している 2017 年度学生公募で遠藤周・東京大学生が、通信機能付き簡易モニタリング機器の実証実験の後、引き続き越冬での試験を実施。
- 東京学芸大学と成蹊高校のコラボで富士山頂からインタラクティブレクチャーのライブ配信を実施。富士山頂から環境活動に関する情報発信は富士山への注目度から一般市民への環境問題啓発に寄与。（2017 年度東京ガス環境おうえん基金助成事業）
- 部外からの講師依頼要請に応え、①専修大学自然科学研究所公開講演会「雲の上でとらえる環境変化 富士山測候所での観測について」(11/18)、②多摩 21 世紀会「よみがえった富士山測候所」(1/23)でそれぞれ土器屋理事が講師をして講演した。

### (4)富士山測候所に関する国際及び国内シンポジウム等開催事業

- 富士山測候所観測 10 周年事業として 2017 年 11 月 6 日から 10 日まで 5 日間にわたり御殿場市御殿場高原ホテル時之栖を会場にして、山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム 2017（ACPM2017）を開催した。12 の国と地域から 101 名が参加し、74 件（口頭:41 件、ポスター:33 件）の発表があり、地球環境問題の解決に向けて研究成果を共有し活発に意見交換をはかった。国際シンポジウムの企画・運営にあたっては当 NPO およびそのメンバーが中心となり、NPO にとって新たな前例を作ったともいえる。
- 国際シンポジウム ACPM2017 に合わせて、①Booklet 「Mount Fuji Research Station」、②ACPM2017 Program Book、③ACPM2017 パンフレットなどの英文資料を制作・配付したほか、④ACPM2017 公式英語サイトの運営管理にあたった。
- 第 11 回成果報告会（3/25）および東京理科大学総合研究院山岳大気研究部門第 2 回成果報告会（3/22）をいずれも東京理科大学同部門と共催実施した。

### (5)出版情報発信事業

- 観測 10 周年の節目を迎えたニュースリリース（7/10）や大河内博・早稲田大学教授のクラウドファンディングなどもあり、新聞（日経、朝日、静岡ほか業界紙『環境新聞』など）、テレビ（静岡第一テレビ、BS-Japan ほか）、ラジオ、地方出版（『実業之富山』）など例年以上に多方面から取材があり各メディアに掲載された。また、朝鮮日報（9 月）や日本政府海外向け広報誌 Highlighting Japan（2018 年 1 月号）により海外へのメディア発信もあった。
- SNS は従来までは Facebook しか使っていなかったが、新たにInstagramでの写真投稿を開始し、夏期観測期間中、HP から連日、山頂班が早朝に撮影した山頂の貴重な画像を発信した。
- 野中勝氏（野中到の孫）の協力を得て、野中到・千代子に関する歴史的にも貴重な資料を整備する準備に着手し、HP の『バーチャル博物館』のコンテンツのひとつとして『野中到・千代子資料館』として公開した。

### (6)調査研究受託事業

火山性ガスの通年モニタリングに向けた省電力小型ガスセンサーのバッテリー駆動によるテスト観測など（2017 年度一般財団法人新技術振興渡辺記念会受託事業「富士山噴火予知のための SO<sub>2</sub> 通年観測システム構築に関する研究」）を実施した。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(1)総合的運用事業	<b>ア. 開所に向けた設営事前準備と事前ミーティングの実施</b> (1)「現状変更申請」、「自衛隊立入り許可証」、「マイカー規制確認証」などにつき関係諸官庁への必要な許可申請手続きを行った。	(A)4/1～6/30 (B)事務局/研究者 (C)20名	(D)研究者等 (E)延377名	12,903
	(2)5/29 夏期観測関係者による事前ミーティングを開催し、安全ルール等について徹底をはかった。	(A)5/28 (B)東京理科大学 (C)5名	(D)一般研究者・学生等 (E)30名	
	<b>イ. 開所期間中の利用者の安全・円滑なロジスティックス、登山/下山の支援</b> (1)「登山計画書」をもとに①登下山の個人別日程管理表②ブル日程表の管理資料作成システムを運用し、62日間・延べ377人の登下山のオペレーションを円滑に実施した。 (2)御殿場基地事務所として新橋地区に民間アパートを短期借上げし、研究者/山頂班に供し有効活用した。	(A)7/1～8/31 (B)富士山頂(富士山測候所)、御殿場基地(御殿場市)、事務局(東京都) (C)50名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)延377名	
	<b>ウ. 夏期観測終了後の報告と反省会の実施</b> (1)「現状変更終了報告」を関係諸官庁(気象庁、静岡県教育委)へ行った。	(A)9/1-10/31 (B)事務局/研究者 (C)20名	(D)研究者等 (E)約20名	
	(2)11/17 夏期観測参加関係者による反省会を実施し、次年度の観測研究に備えた。	(A)11/17 (B)東京理科大学 (C)5名	(D)一般研究者・学生等 (E)20名	
	<b>エ. インフラ(ブル道・建屋・電源等)の整備</b> <b>(1)ブル道</b> 8/23(研究グループ撤収直前)に馬の背ブル道の損傷状況を勘案し、砂入れ補修を実施した。 <b>(2)建物</b> 8/24-8/30 山頂庁舎の老朽化対策として、山頂班が1号庁舎屋根の部材張り替え等工事を実施した(2016年度大成建設自然・歴史環境基金助成) <b>(3)電源</b> 6/22 送電線施設 2.8 合ハットの内部腐食対策として、天井を支柱で補強する工事を実施した。工事にあたっては静岡県をはじめとする地元自治体の協力を得て超特急で許可申請手続きを行い工事遂行に間に合わせることができた。 *ハット内部腐食は前年(2016年)6月の定期点検で発見されたものである。	(A)7/1～8/31 (B)富士山頂(富士山測候所) (C)50名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)延377名	

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(2)科学的・学術的事業	<b>ア. 観測研究の実施支援</b> (1)過去最多となる28事業(継続18事業、新規10事業)に延べ377名(対前年比18%減)が参加して実施された。 (2)①新規のプロジェクトが約3分の1を占めて測候所の活用分野が更に拡大、②夏の観測だけにとどまらず通年無人観測を継続する研究が5件もあり“第2次越冬観測ブーム”、③噴火など火山活動に伴って発生する二酸化硫黄のリアルタイムモニタリングなど富士山噴火に備えた防災関連の研究、④通信技術を利用して登山者の動きを可視化し人命の安全を確保するプロジェクトとの連携、⑤高所医学研究の2年ぶりの参加、などが特筆。 (3)助成事業では「富士山麓の森林環境に及ぼす越境輸送微粒子の現状把握」(粟井英朗環境財団助成事業)、「富士山測候所の被雷対策による温室効果ガス常時観測の実現」(トヨタ環境活動助成事業)、「富士山頂から地球環境問題の最先端を学ぼうプロジェクト」(東京ガス環境おうえん基金)のほか、助成事業として「自由対流圏における水銀挙動の究明」を実施した。	(A)7/1~8/31 (一部通年観測) (B)富士山測候所 (C)延377名	(D)研究者・学生等(公募により選抜) (E)延377名	7,234
	<b>ウ. 観測データの公開及び研究速報の発表</b> 夏期観測のデータを関係者に速報するとともに、観測データの相互利用を促進するためHPを通じて呼びかけ、利用の申込受付を開始した。	(A)9/1~10/30 (B)大学等 (C)延20名	(D)不特定多数 (E)一	
(3)環境教育事業	<b>ア. 学生公募の実施</b> 教育的観点からNPO財源により学生だけによる自主的事業を対象とした公募で選ばれた遠藤周(東京大学生)が、通信機能付き簡易モニタリング機器の実証実験の後、引き続き越冬での試験を実施。	(A)7/1~8/31 (B)富士山測候所 (C)5名	(D)学生 (E)2名	273
	<b>イ. 富士山学校科学講座の開講</b> 富士山測候所においてヒマラヤ登山者を対象に高山病の講話と研究成果の発表を行った。	(A)8/5 (B)富士山測候所 (C)延2名	(D)中高年登山者 (E)10名	
	<b>ウ. 山頂からインタラクティブ授業</b> 東京学芸大学と成蹊高校のコラボで富士山頂からインタラクティブレクチャーのライブ配信を行った。(2017東京ガス環境おうえん基金助成事業)	(A)8/24 (B)富士山測候所 および成蹊高校 (C)延5名	(D)成蹊高校生 (E)5名	
	<b>エ. 環境科学に関するレクチャービデオの作成</b> 山頂で研究活動に参加する学生を主たる対象に環境科学レクチャービデオ「日本一高い大気科学研究所」のコンテンツとして①ハイボリュームエアサンプラー②雲水採取器(いずれも早稲田大学生)による2講座を制作した。(2017東京ガス環境おうえん基金助成事業)	(A)8/20-8/21 (B)富士山測候所 (C)延5名	(D)不特定多数・学生 (E)一名	
	<b>オ. 講師派遣</b> (1)2017/11/18 専修大学自然科学研究所公開講演会で「雲の上でとらえる環境変化 富士山測候所での観測」と題して土器屋由紀子理事が講演した。 (2)2018/1/23 多摩21世紀会で「よみがえった?富士山測候所」と題して土器屋由紀子理事が講演した。	(A)11/18 (B)川崎市 (C)1名  (A)1/23 (B)川崎市 (C)1名	(D)一般 (E)100名  (D)一般 (E)30名	

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(4) 国際・国内シンポジウム等開催事業	<b>ア. ACPM2017(山岳域における大気化学・物理に関する国際シンポジウム)の開催</b> 富士山観測 10 周年事業として 2017/11/6 から 11/10 まで 5 日間にわたり御殿場市御殿場高原ホテル時之栖を会場にして開催。12 の国と地域から 101 名が参加し、74 件(口頭:41 件、ポスター:33 件)の発表があった。会議事務局として①英文冊子"Mount Fuji Research Station"、②Program Book、③パンフレットなどの英文資料を制作・配付したほか、④ACPM2017 公式英語サイトの運営管理にあたった。	(A)11/6—11/10 (B)御殿場市御殿場高原ホテル時之栖 (C)延 100 人	(D)国内外の研究者 (E)延 400 名	7,064
	<b>イ. 第 11 回成果報告会の実施</b> 2018/3/25 東京理科大学総合研究院大気科学研究部門と共催し、第 11 回成果報告会を森戸記念館で開催した。77 名が参加し、35 件の発表(口頭発表 15 件、ポスター発表 20 件)。	(A)3/25 (B)東京理科大学 (C)40 人	(D)不特定多数/会員 (E)77 名	
	<b>ウ. 東京理科大学総合研究院大気科学研究部門主催大気科学シンポジウムの後援</b> 東京理科大学同部門主催第 2 回シンポジウムを後援した。	(A)3/22 (B)東京理科大学 (C)10 名	(D)不特定多数/会員 (E)50 名	
(5) 出版情報発信等広報事業	<b>ア. HP による情報発信</b> (1)夏期観測期間中に①ライブカメラ画像配信(会員向け高精細画像と一般向け標準画像)②SO <sub>2</sub> 観測データの準リアルタイム配信を実施。	(A)4/1~3/31 (B)富士山測候所 (C)延 50 名	(D)不特定多数/会員 (E)一名	107
	(2)インスタグラムでの写真投稿を開始し夏期観測期間中、HP から連日、山頂班が早朝に撮影した山頂の貴重な画像を継続発信した。	(A)7/1~ (B)事務局/山頂班 (C)延 10 名	(D)不特定多数/会員 (E)一名	
	(3)ブログは「国際シンポジウムの舞台裏から」など、間断なく情報の補完を行った。	(A)11/1~3/31 (B)事務局ほか (C)延 10 名	(D)不特定多数/会員 (E)一名	
	(4)野中勝氏(野中到の孫)の協力を得て、野中到・千代子に関する歴史的にも貴重な資料を整備する事業に着手し、HP の『バーチャル博物館』のコンテンツのひとつとして『野中到・千代子資料館』を開設した。今後内容の更なる充実を図る予定。	(A)1/25,2/15 (B)放送局 (C)延 2 名	(D)不特定多数/会員 (E)一名	
<b>イ. 書籍、新聞、ラジオ放送等による情報発信</b> (3)BS-Japan『科学ミチル。世界は未知で満ちている』で 2018/1/25「自然災害に挑む先端科学」に鴨川仁・理事(東京学芸大准教授)、2/15「ゲリラ豪雨に挑む」に大河内博・理事(早稲田大教授)がそれぞれ出演した。	(A)1/31 (B)事務局 (C)5 名	(D)不特定多数/会員 (E)一名		
<b>ウ. 会報誌、パンフレット等出版物</b> (1)会報「芙蓉の新風」Vol. 12(2018/1/31 発行)を ACPM2017 特集号として増頁し、国際シンポジウム関連の特集記事を組んだ。 (2)小冊子「富士山の自由な風」を再編集し第 2 版として発行した。	(A)7/1~8/31 (B)富士山測候所 (C)3 名	(D)不特定多数/研究者 (E)10 名	6,492	
(6) 調査研究受託事業	<b>受託による調査研究事業</b> 受託事業では、「富士山噴火予知のための SO <sub>2</sub> 通年観測システム構築に関する研究」(新技術振興渡辺記念会受託事業)を実施した。			

## (2) その他の事業

該当なし

# 決 算 報 告 書

第 13 期

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

(特非) 富士山測候所を活用する会

東京都千代田区麹町一丁目6番9号

DIK麹町ビル901

## 平成 29 年度 貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	408,147		
未収金	4,031,177		
その他流動資産	7,265		
流動資産合計		4,446,589	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
構築物	4,200,000		
機械及び装置	1,895,000		
什器備品	2,971,245		
減価償却累計額	△ 3,685,934		
有形固定資産計		5,380,311	
(2)無形固定資産			
-	0		
無形固定資産計		0	
(3)投資その他の資産			
保証金	160,000		
敷金	230,000		
投資その他の資産計		390,000	
固定資産合計		5,770,311	
資産合計			10,216,900
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,000,000		
前受金	10,000		
預り金	68,605		
未払い消費税	535,500		
納税充当金	70,000		
流動負債合計		1,684,105	
2 固定負債			
修繕積立金	2,000,000		
固定負債合計		2,000,000	
負債合計			3,684,105
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		6,429,515	
当期正味財産増減額		103,280	
正味財産合計			6,532,795
負債及び正味財産合計			10,216,900

書式第13号(法第28条関係)			
平成 29年度 活動計算書			
平成 29年 4月 1日から 平成 30年 3月31日まで			
特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会			
(単位:円)			
科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	1,205,000		
賛助会員受取会費	545,000		
学生会員受取会費	54,000	1,804,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	1,161,106		
施設等受入評価益		1,161,106	
3 受取助成金等			
受取補助金	0		
助成金	2,899,000	2,899,000	
4 事業収益			
自主事業収益	18,246,573		
科学学術的収益	7,006,147		
環境教育事業収益	146,966		
国際シンポジウム収益	6,726,800	32,126,486	
5 その他収益			
受取利息	51		
その他	33,314	33,365	
6 受託事業収益	7,000,000	7,000,000	
経常収益計			45,023,957
II 経常費用			
1 事業費			
(1)総合運用事業	12,902,979		
(2)科学的・学術的事業	7,233,887		
(3)環境教育事業	273,082		
(4)人的ネットワーク事業	0		
(5)国際及び国内シンポジウム等開催事業	7,064,486		
(6)出版、情報発信等広報事業	107,497		
(7)受託事業原価	6,491,540		
事業費計		34,073,471	
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	2,208,000		
通勤費	823,890		
法定福利費	444,258		
雑給与	2,037,500		
人件費計	5,513,648		
(2)その他経費			
謝金	22,222		
通信費	293,618		
運搬費	38,592		
水道光熱費	90,882		
旅費交通費	240,878		
会議費	100,958		
地代家賃	1,542,840		
事務用消耗品費	245,972		
備品消耗品	40,309		
印刷費	9,196		
租税公課	539,700		
保険料	0		
支払手数料	0		
諸会費	5,000		
雑費	93,391		
その他経費計	3,263,558		
管理費計		8,777,206	
経常費用計			42,850,677
当期経常増減額			2,173,280
III 経常外収益		0	
-		0	
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
修繕積立引当額	2,000,000		
経常外費用計			2,000,000
税引前当期正味財産増減額			173,280
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			103,280
前期繰越正味財産額			6,429,515
次期繰越正味財産額			6,532,795



## 平成 29年度 財産目録

平成 30年 3月 31日現在

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
小口現金	61,105		
普通預金			
みずほ銀行 麴町支店	92,434		
郵貯銀行	12,374		
三菱UFJ 銀行 麴町支店	233,394		
郵貯銀行/受払口座	8,840		
定期預金	0	408,147	
未収金			
事業未収金	4,031,177		
会費未収金	0	4,031,177	
その他流動資産			
前払金	0		
立替金	7,265	7,265	
流動資産合計		4,446,589	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
構築物	4,200,000		
機械及び装置	1,895,000		
什器備品	2,971,245		
減価償却累計額	△ 3,685,934		
有形固定資産計		5,380,311	
(2)無形固定資産			
-	0		
無形固定資産計		0	
(3)投資その他の資産計			
保証金	160,000		
敷金	230,000		
投資その他の資産計		390,000	
固定資産合計		5,770,311	
資産合計			10,216,900
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,000,000		
前受金	10,000		
預り金	68,605		
未払消費税	535,500		
納税充当金	70,000		
流動負債合計		1,684,105	
2 固定負債			
修繕積立金	2,000,000		
固定負債合計		2,000,000	
負債合計			3,684,105
正味財産			6,532,795

平成 29 年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、一般会計基準 によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
無し
- (2) 固定資産の減価償却の方法  
定額法によっています。
- (3) 引当金の計上基準
  - ・退職給付引当金  
無し
  - ・修繕積立金  
収支状況に基づき、任意に引き当てをする。
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理  
無し
- (5) 消費税等の会計処理  
内税方式によっています。

2. 事業別損益の状況

科目	総合運用 事業	科学的・学術 的 事業	環境教育 事業	国際及び国内シンポジ ウム等開催事業	出版、情報発 信等の広報事	受託事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>									
1. 受取会費							0	1,804,000	<b>1,804,000</b>
2. 受取寄附金	1,006,106	0	0	155,000	0	0	1,161,106		<b>1,161,106</b>
3. 受取助成金等		2,899,000	0	1,182,000			4,081,000		<b>4,081,000</b>
4. 賛助金	0	0	0	650,000			650,000		<b>650,000</b>
5. 事業収益	18,246,573	7,006,147	146,966	4,894,800		7,000,000	37,294,486		<b>37,294,486</b>
6. その他収益					33,314		33,314	51	<b>33,365</b>
経常収益計	<b>19,252,679</b>	<b>9,905,147</b>	<b>146,966</b>	<b>6,881,800</b>	<b>33,314</b>	<b>7,000,000</b>	<b>43,219,906</b>	<b>1,804,051</b>	<b>45,023,957</b>
<b>II 経常費用</b>									
(1) 委託費・人件費									
労務委託費	4,272,094					2,020,600	6,292,694		<b>6,292,694</b>
運搬費	1,295,736	5,672,311	273,082			1,318,675	8,559,804		<b>8,559,804</b>
人件費	21,000			288,580		536,000	845,580		<b>845,580</b>
傷害保険料	202,524						202,524		<b>202,524</b>
事務局人件費				1,800,000			1,800,000	5,513,648	<b>7,313,648</b>
委託費計	<b>5,791,354</b>	<b>5,672,311</b>	<b>273,082</b>	<b>2,088,580</b>	<b>0</b>	<b>3,875,275</b>	<b>17,700,602</b>	<b>5,513,648</b>	<b>23,214,250</b>
(2) その他経費									
通信費						39,708	39,708	293,618	<b>333,326</b>
旅費交通費	311,979					282,072	594,051	240,878	<b>834,929</b>
荷造り運賃							0	38,592	<b>38,592</b>
水道光熱費	2,898,111						2,898,111	90,882	<b>2,988,993</b>
賃借料	0			1,325,072		796,708	2,121,780	1,542,840	<b>3,664,620</b>
会議費							0	100,958	<b>100,958</b>
減価償却費	304,576						304,576	0	<b>304,576</b>
物品購入費	470,950	1,090,626				1,147,468	2,709,044	40,309	<b>2,749,353</b>
消耗品費						242,149	242,149	245,972	<b>488,121</b>
外注委託費							0	0	<b>0</b>
印刷製本費	0			436,889	107,497	100,000	644,386	9,196	<b>653,582</b>
修繕費	972,000	470,950		0			1,442,950	0	<b>1,442,950</b>
し尿処理費	613,440						613,440	0	<b>613,440</b>
送電線等保全費	1,512,000						1,512,000	0	<b>1,512,000</b>
租税公課							0	539,700	<b>539,700</b>
その他諸経費	28,569			3,213,945		8,160	3,250,674	120,613	<b>3,371,287</b>
その他経費計	<b>7,111,625</b>	<b>1,561,576</b>	<b>0</b>	<b>4,975,906</b>	<b>107,497</b>	<b>2,616,265</b>	<b>16,372,869</b>	<b>3,263,558</b>	<b>19,636,427</b>
経常費用計	<b>12,902,979</b>	<b>7,233,887</b>	<b>273,082</b>	<b>7,064,486</b>	<b>107,497</b>	<b>6,491,540</b>	<b>34,073,471</b>	<b>8,777,206</b>	<b>42,850,677</b>
当期経常増減額	<b>6,349,700</b>	<b>2,671,260</b>	<b>-126,116</b>	<b>-182,686</b>	<b>-74,183</b>	<b>508,460</b>	<b>9,146,435</b>	<b>-6,973,155</b>	<b>2,173,280</b>

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

=E38+E56

(単位：円)

内容	金額	算定方法
無し		

第1号議案

4. 用途等が制約された寄附金等の内訳							
用途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。							
当法人の、下記のように用途が特定された助成金は前受金0円として負債額計上処理しており、							
よって負債合計額は3,684,105円となります。							
したがって用途が制約されていない正味財産は6,532,795円です。 (単位：円)							
	内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考	
	トヨタ自動車助成金	700,000		700,000	0		
	大成建設助成金	700,000		700,000	0		
	渡辺記念会受託収益	6,000,000		6,000,000	0		
	ACPM2017寄附金	50,000	105,000	155,000	0		
	ACPM2017助成金	0	1,660,000	1,660,000	0		
	ACPM2017企業協賛金	50,000	600,000	650,000	0		
	合計	7,500,000	2,365,000	9,865,000	0		
5. 固定資産の増減内訳 (単位：円)							
	科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
	有形固定資産						
	構築物	4,200,000	0	0	4,200,000	1,156,680	3,043,320
	機械装置	1,895,000	0	0	1,895,000	633,170	1,168,027
	事業用什器備品	2,162,925	698,520	0	2,861,445	1,670,974	1,190,471
	管理用什器備品	109,800	0	0	109,800	98,820	10,980
	計	8,367,725	698,520	0	9,066,245	3,559,644	5,412,798
	無形固定資産						
	.....				0	0	0
	投資その他の資産						
	保証金	160,000			160,000		160,000
	敷金	230,000			230,000		230,000
	計	390,000	0	0	390,000	0	390,000
	合計	8,757,725	698,520	0	390,000	3,559,644	5,802,798
6. 借入金の内訳 (単位：円)							
	科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高		
	無し	0	0	0	0		
	合計	0	0	0	0		
7. 役員及びその近親者との取引の内容 (単位：円)							
役員及びその近親者との取引は以下の通りです。							
	科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引				
	(活動計算書)						
	受取寄附金	1,161,106	72,266				
	活動計算書計	1,161,106	72,266				
	(貸借対照表)						
	前受金	10,000	0				
	貸借対照表計	10,000	0				
8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項							
	・ 事業費と管理費の按分方法						
	無し						
	・ その他の事業に係る資産の状況						
	無し						

(参考資料) <b>平成29年度 予決算対比活動計算書</b>					
(平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで)					
特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会					
(単位：円)					
科 目	29年度予算 (a)	構成比	29年度実績(b)	構成比	差異額(b)-(a)
<b>I 経常収益</b>					
<b>1 入会金・会費収入</b>	<b>2,135,000</b>	<b>5%</b>	<b>1,804,000</b>	<b>4%</b>	<b>-331,000</b>
正会員会費収入	1,450,000		1,205,000		-245,000
賛助会員会費収入	600,000		545,000		-55,000
学生会員会費収入	85,000		54,000		-31,000
<b>2 受取寄附金</b>	<b>1,000,000</b>	<b>2%</b>	<b>1,161,106</b>	<b>3%</b>	<b>161,106</b>
受取寄附金	500,000		1,006,106		506,106
使途特定寄附金 (ACPM2017)	500,000		155,000		-345,000
<b>3 受取助成金等</b>	<b>2,892,000</b>	<b>6%</b>	<b>2,899,000</b>	<b>6%</b>	<b>7,000</b>
補助金	0		0		0
助成金	2,892,000		2,899,000		7,000
<b>4 事業収益</b>	<b>28,212,000</b>	<b>61%</b>	<b>25,399,686</b>	<b>56%</b>	<b>-2,812,314</b>
自主事業収益	19,212,000		18,246,573		-965,427
科学学術事業収益	9,000,000		7,006,147		-1,993,853
環境教育事業収益			146,966		146,966
<b>5 国際国内シンポジウム</b>	<b>4,660,000</b>	<b>10%</b>	<b>6,726,800</b>		<b>2,066,800</b>
国際シンポジウム会費収入	2,500,000		4,894,800		2,394,800
国際シンポジウム助成金収入	1,660,000		1,182,000		-478,000
国際シンポジウム企業賛助金	500,000		650,000		150,000
<b>5 その他収益</b>	<b>7,050,000</b>	<b>15%</b>	<b>7,033,365</b>	<b>16%</b>	<b>-16,635</b>
受取利息			51		51
受託事業収入 (渡辺記念会)	7,000,000		7,000,000		0
その他	50,000		33,314		-16,686
<b>経常収益計</b>	<b>45,949,000</b>	<b>100%</b>	<b>45,023,957</b>	<b>100%</b>	<b>-925,043</b>
<b>II 経常費用</b>					<b>0</b>
<b>1 事業費</b>	<b>35,542,000</b>	<b>78%</b>	<b>34,073,471</b>	<b>80%</b>	<b>-1,468,529</b>
総合運用事業費	15,652,000		12,902,979		-2,749,021
科学的・学術的事業費	8,460,000		7,233,887		-1,226,113
環境教育事業費	130,000		273,082		143,082
国際・国内シンポジウム等開催事業	4,750,000		7,064,486		2,314,486
広報活動事業費	150,000		107,497		-42,503
受託事業費	6,400,000		6,491,540		91,540
<b>2 管理費</b>	<b>9,800,000</b>	<b>22%</b>	<b>8,777,206</b>	<b>20%</b>	<b>-1,022,794</b>
事務局人件費	6,500,000		5,513,648		-986,352
会議費	100,000		100,958		958
事務局運営費	3,200,000		3,162,600		-37,400
<b>経常支出合計</b>	<b>45,342,000</b>	<b>100%</b>	<b>42,850,677</b>	<b>100%</b>	<b>-2,491,323</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>607,000</b>		<b>2,173,280</b>		<b>1,566,280</b>
<b>III 経常外収益</b>	<b>0</b>		<b>0</b>		<b>0</b>
-	0		0		0
<b>IV 経常外費用</b>	<b>450,000</b>		<b>2,000,000</b>		<b>1,550,000</b>
災害対策費	450,000		0		-450,000
修繕積立引当額			2,000,000		2,000,000
<b>V 税引前当期正味財産増減額</b>	<b>157,000</b>		<b>173,280</b>		<b>16,280</b>
法人税、住民税及び事業税	70,000		70,000		0
<b>VI 当期正味財産増減額</b>	<b>87,000</b>		<b>103,280</b>		<b>16,280</b>
前期繰越正味財産額	6,429,515		6,429,515		0
<b>VII 次期繰越正味財産額</b>	<b>6,516,515</b>		<b>6,532,795</b>		<b>16,280</b>

# 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

理事長 畠山 史郎 殿

定款第15条第5項の規定に基づき、第12期事業年度の計算書類とその付属 明細書の監査、並びに理事の業務執行状況について監査した結果、次のとおり報告します。

## 1. 監査の方法及びその内容

理事会に出席し、会計帳簿その他会計に関する重要な文書を開覧すると共に、理事等から職務の業務執行状況等の報告を受け、また、随時説明を求めてきました。

## 2. 監査の結果

- (1) 財産目録、貸借対照表、活動計算書は、法人の財産及び収支の状況の全ての重要な点において適正に表示している。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく表示している。

平成30年4月23日

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

監 事 亀甲 邦敏 印

監 事 佐藤 政博 印